

分野（ 2 ） 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研究課題名：吸入アレルゲン回避のための室内環境整備の手法と予防効果

申請課題名：吸入アレルゲン回避のための室内環境整備の手法と予防効果

調査研究代表者氏名：福 富 友 馬

評価コメント

- ・原因アレルゲン同定法の確立に向けたプログラムは進展しているように思われる。ヒラタチャタテ虫のポリクロナール抗体の確立によってこれによる喘息発症への疫学的研究や予防対策の確立が進展すると期待できる。
- ・aspergillus間の共通抗原性についても検討してもらいたい。また保険制度との関係もあるため、スクリーニングパネルの作成は慎重にしてもらいたい。研究の進展に期待している。
- ・気道アレルギー原因アレルゲンのスクリーニングパネルの作成に当たり、対象者の年齢、居住地も考慮して欲しい。
- ・地域差については例示的であってもデータを出して欲しい。
- ・気管支喘息でカビ抗原が陽性に出ても、その臨床的意義について迷うことが多い。一般臨床医のため、その臨床的意義を正確に明らかにして欲しい。
- ・現在、ABPAの早期診断は非常に難しい。もし、ABPAに特異性の高いアスペルギルス抗原を見つければ、その臨床的有用性は非常に大きい。
- ・新たに昆虫、特にヒラタチャタテに注目するなど、発展性が期待されるが、次年度に完成するか多少不安が残る。
- ・原因アレルゲンのスクリーニングパネル作成は特に非専門医にとって有用な研究である。小児ではアレルゲンが異なるので、小児科医の研究者と小児版も作成すべきである。啓発活動資料作成はやや遅れているのでは。屋内昆虫については、チャタテムシを中心に行っているがやや研究の遅れが見られる。また、気管支喘息患者での感作の程度や頻度を検討すべきである。
- ・室内吸入アレルゲンに関する手引書の発行を予定しているが、機構から無料で配布されるものに加えて、有料でも継続的に入手できるように、出版社からの発刊がどのような形で可能か、機構担当者とも相談して実現してほしい。
- ・アレルギー研究の王道であるアレルゲンを軸に種々の検討を行っている。従来、十分には検討されていない真菌や昆虫について意欲的に取り組んでいるが、まだ研究途上にある。研究費のバランスはとれているか考慮の必要がある。